

由良町大型カルバート個別施設計画



令和7年10月 改訂

由良町 地域整備課

目 次

I. 由良町の大型カルバートの概要	2 p
(1) 町内の大型カルバート	2 p
(2) 管理する大型カルバートの現状と課題	2 p
(3) 町内の大型カルバート	2 p
(4) 町内の大型カルバート所在地	2 p
II. メンテナンスサイクル	3 p
(1) メンテナンスサイクルの基本的な考え方	3 p
(2) 点検の方法	3 p
III. 今後の点検・修繕計画	4 p
(1) 対象施設・計画期間	4 p
(2) 施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用	4 p
IV. 老朽化対策における基本方針	5 p
V. 費用の縮減に関する具体的な方針	6 p
VI. 新技術等の活用方針	6 p

I. 由良町の大型カルバートの概要

(1) 町内の大型カルバート

由良町が管理する大型カルバートは1基 (L=52.7m) となっております。(令和4年3月31日現在)

(2) 管理する大型カルバートの現状と課題

由良町が管理する大型カルバートは、令和4年3月31日現在で1基です。老朽化による損傷が進めばコンクリート片剥落などによる第三者被害などの事象も想定されるため、定期点検による確実な状態把握(早期発見)、点検結果に基づく確実な対策(早期補修)が必要となっております。

(3) 町内の大型カルバート

【衣奈カルバート (衣奈)】



(4) 町内の大型カルバート所在地

町内の大型カルバート所在地については、別添由良町大型カルバート所在地を参照

Ⅱ. メンテナンスサイクル

(1) メンテナンスサイクルの基本的な考え方

道路管理者による点検⇒診断⇒措置⇒記録というメンテナンスサイクルを確立するために、具体的な点検頻度や方法等が法令で定められ、また、「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」（平成26年4月）より、持続的に取り組むべきと提言されました。

これらを踏まえ、今後さらに老朽化する道路構造物に対して、シェッド、大型カルバート等定期点検要領（国土交通省道路局）に基づき、5年に1回の頻度で、近接目視による点検を実施し、健全性の判定を4段階で区分して橋梁の状態を把握し、必要に応じて措置を講じていきます。

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態



(2) 点検の方法

定期点検は、知識及び技能を有する者が5年に1度の頻度で近接目視により実施することを基本とします。

【大型カルバート点検の様子】



Ⅲ. 今後の点検・修繕計画

(1) 対象施設・計画期間

町内の大型カルバート 1 基を対象とし、5 年に 1 度の定期点検サイクルを踏まえ、計画期間は 10 年とします。

その他、必要に応じて随時計画を更新します。

(2) 施設の状態・対策内容・実施時期・対策費用

令和 2、3 年度に大型カルバート 1 基の 2 巡目点検を実施し、その結果は以下のとおりです。

【大型カルバート】

1巡目	和歌山県が実施
2巡目	Ⅱ判定

IV. 老朽化対策における基本方針

以下3つの方針を基本に老朽化対策に取り組みます。

1. 持続可能な維持管理の実現

定期点検の結果を踏まえ、持続可能なメンテナンスサイクルにより道路構造物を維持・管理します。

2. 効率的な維持管理

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう以下の優先順位の考え方に基づき必要な対策を講じます。

優先順位	優先順位の考え方
①	第三者に対する安全性に著しく影響を及ぼし、緊急的に対応が必要となる『Ⅳ判定』を最優先で実施します。
②	早期に補修を行う必要がある『Ⅲ判定』については、第三者への影響度や路線の重要度などを総合的に勘案して優先的に対策を実施します。
③	予防保全の観点から補修を行う必要がある『Ⅱ判定』については、第三者への影響度や路線の重要度などを総合的に勘案して必要に応じて対策を実施します。

V. 費用の縮減に関する具体的な方針

集約化・撤去を検討するが、緊急時の町活用道路に指定される住民の生活道路でもあるほか、隣接する迂回路を通行した場合、約4km（所要時間8分）を迂回することとなり、利用状況や施設が担う役割から廃道が難しく住民への影響が大きいため、現時点での集約化・撤去は困難であります。

周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて、再度検討を行います。

VI. 新技術等の活用方針

新技術を活用することで、道路構造物のメンテナンスにおけるコスト縮減等の課題に大きく貢献するため積極的な活用が求められます。

しかし、新技術の活用に際しては、劣化要因や施工条件、費用対効果を考慮した上で選定する必要があります。

令和12年度までに、定期点検では新技術等の活用の検討を行い、10%程度の費用縮減や工期短縮を目指します。

由良町大型カルバート所在地



